



経営の散歩道

一五六回

富山短期大学名誉教授 川中清司

小泉総理の気質は 祖父の又さん譲り

小泉純一郎首相の祖父の小泉又次郎通信大臣は、親分肌で男気があり、「入れ墨の又さん」と呼ばれた。

請け負い業に生まれ、独学で小学校の助教から政界にはいり、民政党の幹部となった。
若い頃は、日露戦争後のポーツマス条約の反対運動で、日比谷焼き打ち事件の旗を振り、普通選挙推進運動の闘士だった。
「俺は野人でいい。大臣などならない」と強く

断つたが、国のために命をかける君の助けが要ると懇願されて引き受け、あとで「野人の歴史を汚してしまつた」と悔やんだという。

大臣になって、宮中に参内するにもモーニングがなく、友人から借りた。馬車がないので内務大臣の足立謙蔵に乘せて貰ったが、宮中の玄関で御者と間違えられてひと悶着した。

「役人の金の使い方が日に余る」と、井上準之助蔵相に迫り、閣議で節約令を決めさせた。

支持率八六%、追い風 改革に挑む

小泉首相は「恐れず、ひるまず、とらわれず」聖域なき構造改革をやり抜く、反対するものはたとえ自民党でも「抵抗勢力」だと国会演説で決めつけた。

党首討論で鳩山民主党首は「志半ばで倒れたら私達が骨を拾ってあげますから」と言うなど、野党も攻めあ



ぐんだ。

六月二十九日、攻防百五十日の国会が終わり、記者から「ワイドショー内閣だった」と揶揄されても、「別に気にしていない。政治に関心のなかった層も関心を持ち始めた。それでも良かったじゃないの」とさらり

とかわした。

だが、経済諮問会議の基本方針は「必ず守る。調整不能な事態が起きたら、最後の決断の責任は私にある」ときっぱり明言した。

骨太改革の痛み

経済再生のシナリオは、

小泉改革の行方

21世紀を考える(6)

▽今後二、三年で不良債権を抜本解消。その間は低成長を甘受し痛みを耐える。
▽失業対策と五三〇万人の新規雇用の創出・高齢者の医療費や、社会保障の負担の見直し・六三〇兆円の公共投資、道路など特定財源見直し・市町村再編と地方

財源の見直し
▽国債発行は三〇兆円以内に抑制する。

社会不安を避ける 柔軟な対応も

日銀の七月三日の「短観」では、景況感の一層の悪化を確認し、夏以降さらに深刻化が高まる可能性がある。不良債権の処理が進み、銀行は自己資本を高めるため資金回収を強める。中小企業の多くは資金繰りが苦しく、担保の余力が底をつき融資が受けられない。
このままでは、倒産と失業が増える。
医療、テクノロジなど新分野の開発を急ぎ、失業救済のネットワークを布いても厳しい痛みは必至だ。
改革と共に、手術に耐えられる処方箋も必要だ。